

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4 4	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Increased use of cigarettes, alcohol, and Marijuana among Manhattan, New York, residents after the September 11 th terrorist attacks 9月11日のテロリスト攻撃事件以降のニューヨークマンハッタンにおけるタバコ、アルコール、マリファナ使用の増加	
執筆者	
David Vlahov, Sandro Galea, Heidi Resnick, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
American Journal of Epidemiology 155:988-96, 2002.	
キーワード	
飲酒、災害、マリファナ喫煙、喫煙、ストレス障害、心的外傷後、薬物関連障害	
要 旨	
<p>2001年9月11日のテロリスト攻撃は、アメリカにおいて市民戦争以降のもっとも大きな人的災害であった。災害早期の精神的障害については報告があるが、災害以降の遅い時期における薬物使用についての報告は少ない。そこで、テロリスト攻撃の5-8週間後のニューヨークマンハッタン地区の住民に対して、電話番号によるランダムインタビュー調査により、喫煙、アルコール消費、マリファナ使用の増加者の割合について調査した。調査可能であった988人の内、28.8%にこれら三つの内の一つにその増加を認めた。9.7%が喫煙量の増加を、24.6%にアルコール消費量の増加を、3.2%にマリファナ喫煙の増加を認めた。喫煙とマリファナの増加を認められた人は、そうでない人と比較して、心的外傷後ストレス障害を経験していると考えられた。これらの結果は、9月11日の攻撃以降、急性期災害後における薬物使用のかなりの増加を示唆している。種々の薬物使用の増加は、さまざまな精神的障害の存在と関連していると考えられる。</p>	